

2021年度入試の問題分析

① 出題傾向

公募制推薦入試、一般選抜ともに全問マークシート方式。長文読解、短文空所補充(語彙、文法)、語句整序、会話文読解、グラフ・広告・図表付き会話文などを用いた読解問題の5大問で構成されており、さまざまな角度から英語力を試す形式である。

② 公募制推薦入試(60分)について(全学部共通)

試験時間は60分で、一般選抜よりも10分短い。出題傾向は一般選抜と同様で、Ⅰ長文読解、Ⅱ短文空所補充(語彙、文法)、Ⅲ語句整序、Ⅳ会話文読解、Ⅴグラフ・広告・図表付き会話文などを用いた読解問題で構成されている。Ⅳの会話文では一般選抜でも出題される内容一致問題に加えて、選択肢が文単位の空所補充問題も出題され、全体的な設問数は1問多くなっている。Ⅴグラフ・広告・図表付き会話文などの読解は1問少なくなっている。

③ 一般選抜(70分)の出題形式と難易度(全学部共通)

- ・ Ⅰ 長文読解
約350～450語(本文1～2ページ)程度の長文を用いた出題。設問形式は、本文中の語句と同意の語句を選択する問題と、パラグラフを指定した英問英答形式の内容一致問題、タイトル選択問題。長文の内容は、さまざまなテーマを扱っているが、難しい語句には脚注が付いている。難易度は標準レベルである。
- ・ Ⅱ 短文空所補充
標準レベルの文法、語法、語彙、イディオムの問題が出題されている。その中では、語彙とイディオムの出題が特に多い。文法事項は時制、関係詞(関係代名詞、関係副詞)、比較、準動詞(動名詞、不定詞、分詞)、仮定法、代名詞など広範囲にわたって問われ、関係詞、準動詞、時制の出題が比較的多くなっている。
- ・ Ⅲ 語句整序
日本語と同じ意味を表すように、語句を並べ換えて英文を完成する問題が出題されている。標準レベルの文法や構文(比較、不定詞、関係詞、接続詞、itの用法、無生物主語など)、またイディオムや定型表現が問われている。
- ・ Ⅳ 会話文読解
それぞれ4～6行程度の会話文を用いた出題。内容一致問題や、会話の後の登場人物の行動として予想されるものを選ぶ問題、会話の内容から登場人物の性格を読み取る問題が出題されている。会話文の内容は、友人・家族・同僚などと思われる2人の日常会話が大半だが、教授と生徒、従業員と利用客などの会話もある。難易度は標準レベルだが、会話特有の表現が出ることもある。
- ・ Ⅴ 広告・案内・図表付き会話文などの読解
広告・案内・グラフ・図表付き会話文・メール・メニューなどを用いた出題。設問形式は、節単位や長めの語句単位の空所補充を含む、内容一致問題である。難易度は標準レベルだが、図表に記載されている情報や数値を読み取る設問のほか、会話の文脈を理解する必要がある設問もある。

学習アドバイス

① 公募制推薦入試の学習対策

基本的な傾向は一般選抜と同様なので、一般選抜の過去問にも取り組むのが対策として有効である。問題集で文法、語法を身につけるほか、日頃からできるだけ長文を読み、語彙、イディオムを強化しよう。Ⅳの会話文読解は、対話の場面や文脈を正確に把握する必要がある。また、会話特有の表現があるので、問題集などで表現を覚えるようにしよう。

② 一般選抜の学習対策

- ・ Ⅰの長文読解の対策としては、日頃から各パラグラフの要旨を明確にしながら読む練習をしておきたい。また、パラグラフごとに設問があるので、パラグラフを読むごとに問題を解くことを心がけよう。その際、答えの根拠となる箇所を下線を引く習慣をつけておくとよいだろう。語彙に関しては、単語集やカードを使って覚えることはもちろん必要だが、英文を読むことで語句の使い方や新たな意味がわかるようになるので、できるだけ長文を多読して語彙力をつけておきたい。また、わからない単語があってもすぐに辞書に頼らず、どんな意味かを推測する練習もしておこう。
- ・ Ⅱの短文空所補充は、基礎的な文法、イディオムを含む語彙が出題されているので、問題集などを繰り返し解き、幅広い知識を身につけておこう。
- ・ Ⅲの語句整序は、与えられた日本語から、どのような英文構造になるのかを考える必要がある。日頃から標準レベルの文法や構文の知識を整理しておきたい。不定詞、形式主語、形式目的語などのitの用法、無生物主語構文、2つの節を結ぶ関係詞や接続詞、またイディオムや定型表現は頻出なので、しっかり身につけておこう。
- ・ Ⅳの会話文読解は、会話の状況や人間関係を把握し、文脈を正確にとらえることが必要である。また、会話特有の表現が出てくるので、問題集などを使ってしっかり覚えておくようにしよう。
- ・ Ⅴの広告・案内・図表付き会話文などの読解は、最初に設問を読んで何が問われているのかを把握してから、該当箇所を探しつつ読む練習をしておくこと。このような形式の問題は、共通テストやTOEICなどでも出題されているので、類題を多く解くことで十分に慣れておきたい。